

国際投信投資顧問

「グローバル・ソブリン・オープン」

【商品の概要】

- | | |
|----------|-----------------------|
| 1. 商品分類 | 追加型株式投資信託 |
| 2. 信託期限 | 無期限（当初設定日 平成9年12月18日） |
| 3. 決算 | 毎月17日 |
| 4. 申込単位 | 1万円以上1円単位 |
| 5. 申込・換金 | いつでも可 |

【特色】

1. 世界主要先進国のソブリン債（政府及び政府機関が発行する債券の総称）に分散投資
2. 毎月決算を行い、収益の分配を行う

今月中頃、国際投信投資顧問が運用する投信「グローバル・ソブリン・オープン（毎月決算型）」の資産残高が3兆円を突破したと伝えられました。特にこの1年で残高を1兆円伸ばし、投資家も70万人を超えたとのことで、大変な人気を呼んでいるようです。そこで、この国内最大規模の投資信託を調べてみたい気持ちになりました。

この投信が人気を呼んでいる要因は3つあるように思います。1つは、運用収益を毎月受取れるという毎月決算型であることです。それが、高い利回り（今のところ4%程度確保している）と相俟って、特に年金以外に収入のない高齢者に支持されているようです。

2つは、運用対象がソブリン債ということがあります。政府及び政府関係機関の発行する債券に投資するのだから安全性が高いと判断しているのだと思います。私は必ずしもそうは考えませんが、我が国では公的なものへの信頼性が高くなるのは伝統的な思考様式です。

3つが販売チャネルの広さです。証券会社が83社、銀行（含む生保）が63社取扱っているとのことです。特に銀行が熱心で、最近では銀行窓販の取扱が70%に達しているとのことです。多分、低金利を理由に外部に流失する可能性の高い資金をこの投信でつなぎ止めているのだと思います。

このような投資信託ですが、何か問題はないのでしょうか。まず、基準価格（スタート時10,000円）の推移を見てみました。設定来の動きは概ね下記の通りです。

1997.12.18	10007円	1998.12.18	9909円	1999.12.17	7309円
2000.12.17	7121円	2001.12.17	7908円	2002.12.17	8107円
2003.12.17	7838円	2004.05.17	7905円		

最初の頃は毎月60円分配していた時期がありましたが、最近の分配額は毎月40円になっています。年間480円ですから、基準価格10,000円で買った人でも4.8%の利回り（税前）となっています。現在の基準価格で買えば利回りは更に高くなります。ただ、基準価格が8,000円前後と設定来2千円下落していることが気になります。

基準価格は現在の価格で元本みたいなものです。配当は払っているけれど元本は2割程度減ってしまっている - これがこの投信の現在の姿です。元本を減らす要因とは何でしょうか。主たる要因は金利上昇と為替変動（円高）の2つです。

金利が上昇すれば債券は値下がりします。利子収入はなくなりませんが、元本価値そのものが下がってしまいます。世界的な金利上昇が喧伝されていますが、今後金利が上昇すれば更に基準価格は下がることとなります。その場合、分配金を減らさざるをえなくなるでしょう。

もう1つのリスクファクターは為替動向です。為替が円高に動けば元本と利子に為替差損が発生します。この投信は、当然ですが利子収入を減らさないため為替リスクヘッジはしていません。だから円高は元本を毀損させます。この2つのリスクに留意すべきでしょう。